



やまざとの風

～心を込めた「あいさつ」「校歌」 輝く「笑顔」～

山里中学校だより

2026. 9. 24 号

文責 岸本

保育園で実習中～



優しい表情がとても印象的でした。人を思いやり、相手の立場に立って接することの大切さを、実際の交流の中で学ぶ貴重な機会になっていると感じます。この経験を、これからの学校生活や将来へとつなげてほしいと思います。

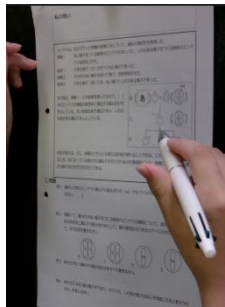
17日（木）から、さくら保育園において、中学3年生の保育園実習が始まりました。クラスごとに日を分けて訪問し、園児との交流を深めています。

この日は1組が訪問し、プレイルームで手遊びやゲームなどを楽しみながら、園児たちと触れ合いました。

実習中の生徒たちを見ると、どの顔にも自然と笑顔が広がり、園児に優しく声をかけたり、目線を合わせて接したりする姿が見られました。

園児との触れ合いを通して見せてくれた、生徒たちの

「自ら学ぶ力」を育てる授業を目指して



本校では、研究主題を「個別最適な学びで育てる自己調整力」～問いを立て、自らの学びを探究する生徒を目指して～と設定し、研究を進めています。具体的な手立てとして、①問いを立てる、②自由進度学習を取り入れる、③学びを振り返るの3つを柱に据え、日々の授業に取り入れています。こうした学びを通して、「自らの人生を、自らの手で切り拓いていく力を身に付けた生徒」を育てていきたいと考えています。

その研究の中間発表が18日（金）、3年1組の理科の授業で行われました。

授業では、生徒たちが問題を解決するために、「今の自分に必要なものは何だろう」「どうすればもっと分かるようになるだろう」と、自ら問いをもち、それぞれの方法で学習を深めていました。



教師は、すぐに答えを教えるのではなく、生徒が自分の力で考えを進められるよう助言する「学びのフォロワー」として、一人一人の学びを支えます。また、生徒自身が様々な教材や学習方法を選択して学びを深めるとともに、分からないことを互いに尋ねたり、教え合ったりする姿も見られました。

これからの社会では、与えられた課題に答えるだけでなく、自ら問いをもち、自分に合った方法を選びながら、粘り強く学び続ける力が大切になります。学校での学びは、卒業したら終わるものではありません。生徒たちが将来、自ら考え、判断し、自分の人生を切り拓いていくための力につながっていくものです。



そのため、私たち教職員も、よりよい授業づくりを目指し学びを深めています。研究授業の後には、授業で見られた生徒の姿をもとに、「どのような働きかけが生徒の問いにつながったのか」「一人一人が自分に合った方法で学ぶためには、どのような支援が必要か」などについて、グループで意見を交わしました。

大切にしているのは、教師が「教える」ことだけではなく、生徒の学びに寄り添い、その可能性を引き出すことです。そのためには、私たち教職員自身も、互いの実践から学び、授業を振り返りながら成長し続けることが必要だと考えています。「自ら学ぶ生徒」を育てるために、まず私たち教職員が「学び続ける教師」でありたい。そんな思いを共有しながら、学校全体で授業づくりに取り組んでいます。

30年の伝統をつないだ吹奏楽部定期演奏会



23日(水)、シルバーウィーク最終日に、市民会館文化ホールにおいて、吹奏楽部第30回定期演奏会が開催されました。

第1部では、今年度の吹奏楽コンクールの課題曲や自由曲などを披露し、これまで積み重ねてきた練習の成果を、力強く心のこもった演奏で会場いっぱいに響かせました。

第2部では、第30回の記念公演として、1期生をはじめ43名のOB・OGの皆様にご参加いただきました。創部当時は60名の部員に対して楽器が24しかなかったこと、10年前には全国で金賞を受賞したこと、Tシャツのデザインには「ONE HEART 心を一つに」という思いが込められていることなど、30年にわたる歴史と伝統も紹介されました。

第3部では、3年生有志による「サザエさんファイターズ」も登場し、会場は大いに盛り上がりました。また、今回で引退する3年生からは、顧問の先生方や保護者、仲間への感謝が語られ、後輩たちには、「九州大会金賞」という目標が託されました。

30年の伝統は、多くの方々の思いと支えによって受け継がれてきたものです。先輩から後輩へ、音楽とともにその思いがつながっていく姿に、「伝統をつなぐ」ことのすばらしさを感じました。

ご来場いただいた皆様、記念公演に華を添えてくださったOB・OGの皆様、そして日頃から吹奏楽部を温かく支えてくださっているすべての皆様に、学校を代表して心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。